

座間市相互提案型協働事業実施報告書

25年 4月 30日

(宛先)座間市長

団 体 住 所 座間市入谷 4-3011-6 2-914

名 称 ざま災害ボランティアネットワーク

代表者氏名 濱田 政宏



市 担 当 課 市民部安全防災課

所 属 長 安全防災課長 堤 満博



次のとおり報告します。

1 事 業 名	防災啓発研修会事業
2 事 業 形 態	<input type="checkbox"/> 市民活動団体提案協働事業 <input checked="" type="checkbox"/> 市提案協働事業
3 選 考 年 度	23年度選考(24年度実施)
4 実 施 期 間	平成 24 年 4 月 1 日 から 平成 25 年 3 月 31 日 まで
5 事 業 費	320,712円 (内座間市支出分 320,712円)
6 事 業 概 要 ※詳細な報告は、別紙事業評価シートに御記入ください。	<p>座間市地域防災計画に定める防災意識の普及を図るべく計画、実施する。地震発生時の被害を軽減するため、市及び防災関係機関は、災害対策を推進すると共に、市民一人ひとりが適切な行動がとれるように積極的に防災知識の普及に努める。</p> <p>市民(家庭・地域)が自ら、日頃から備えや予防に対する知識を向上させると共に、自助・隣助・共助の大切さを学んでいただく。</p> <p>同時に、市の避難所開設担当職員に対して、防災意識の向上と担当者としての日常の災害対応行動や役割認識の必要性を学んでもらう。</p> <p>なお、本講座は、ざま災害ボランティアネットワークが座間市に対して提案した「座間市いっせいで災害対応行動訓練」ShakeOut 2013 in ZAMAと一体をなすものである。</p>
5 添 付 資 料	<input checked="" type="checkbox"/> 収支決算書 <input checked="" type="checkbox"/> 事業詳細報告書 <input checked="" type="checkbox"/> 事業記録写真 <input checked="" type="checkbox"/> チラシなどの広報資料 <input checked="" type="checkbox"/> 作成した冊子などの資料 <input type="checkbox"/> その他()

相互提案型協働事業評価シート

事業名	防災啓発研修会事業
-----	-----------

1 協働事業の成果

協働事業により設定した事業目的が達成できたか、市民ニーズに効率的、効果的に対応できたかなど、事業の成果について評価します。

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
事業の達成度	<p>所期の目的は、十分達成できましたか。</p> <p>市民への啓発についてはPRの浸透度合いが弱かったのかも一つ目標へ届かなかった。 (達成度合い70%程度)</p> <p>職員については、参加した職員はおおむね熱心な受講状況だったが、そもそも研修に出席しない状況があることは理解できない。補講でも行うべきではないか？ (達成度合い70%程度)</p>	<p>年間10講座開催予定のうち、1講座が開催できませんでしたが、これは他の催し物と時間が重複したことが影響していたことが考えられます。次年度計画は、市全体の事業の把握が肝要と反省するところです。</p> <p>職員向け研修は、座学、体験型ともに今回初めての試みでありました。参加人数や就業規則などの課題もありますが、今後に向けての重要な一歩になったものと捉えております。 (達成度合 70%程度)</p>
事業成果・効果	<p>事業を実施したことによる成果・効果について、具体的に記入してください。</p> <p>講座を受講したことがきっかけとなり家庭内の減災・防災の取り組みが活発になったとの話をうかがった。また、体験型講座で、実際に知識を身につけて具体的な「もの」の備蓄行動に結び付いたという話を聞いた。 学校や、保育園、幼稚園から個別の講座や訓練の依頼が増えてきた。 また、並行して取り組んできた1月23日の「座間市いっせいで防災行動訓練(ShakeOut訓練)」へ予想を超える参加登録者があったことは、これら全体の相乗効果の結果だと考える。 職員研修では、座学の講座から実技の訓練へ進化したととらえている職員の方々の前向きな意見をうかがいうれしく思った。</p>	<p>研修後のアンケートを見ると、研修内容については講座参加者のほとんどの方が好評価の感想をお持ちであります。これは、本事業の団体側であるざま災害ボランティアネットワークの日頃の活動からの豊富な経験、知識に基づくカリキュラムや従来の行政→市民という図式ではない市民目線からの防災・減災に対するアプローチの手法が受け入れられたものと思います。</p> <p>また、これにより、お仕着せのかたちでない自助・隣所・共助の意識を学んでいただけたものと思います。</p>

2 協働事業における取組

事業プロセスにおいて、計画段階から完了まで良好なパートナーシップが発揮されたかについて評価します。

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
目的・目標の共有	十分な協議や調整により、事業目的や課題に対する共通の認識を持つことができましたか。	
	おそらく今年度の協働事業の中では一番連携が取れた事業だと思っている。担当部署は日常の定型業務のほかにこのような事業を抱えて本当にご苦労なことだと思った。減災・災害対応についての共通認識は強固な水準まで高まった。その成果は、24年度座間市が取り組んだ「地域防災計画」の修正にも反映されているものと思う。	市民及び職員に対する防災・減災意識の啓発については、その必要性について団体、市とも十分認識しているところであり、それに基づき事業実施してこられたと思います。
事業の進行管理	進捗状況について情報交換を行うとともに、必要に応じてスケジュール等の見直しを行うことができましたか。	
	本事業のみならず ShakeOut 事業とともに絶えず情報交換と綿密な調整を行いながら進化した。しかし、一部、調整漏れがあつて会場の確保や広報のスケジュール管理に漏れがあつたところもあつた。しかし、その対応のまずさを乗り越える調整の中で一層の関係強化につながつたと思う。	一部スケジュールの調整に欠ける部分があつたが、日頃から情報、意見交換の体制は確立できていたので、全体としては混乱なく進行できたと思います。
対等な関係	協働の相手として、対等な立場で協議することができましたか。	
	出来たと考える。ケースによっては「言い合い」になった場面もあるが本音で意見をぶつけ合えなければ「協働」すなわち「対等な立場」は生まれないと考える。行政の中には、このような行動に対して違和感を覚えてか「黄色いジャンパー」は怖いという印象を持つ人がいると聞いたが大きな誤解だと思う。今後の活動を通じて解消してゆきたいと考える。 これからの地方自治の政策推進の基本は「Government2.0」のレポートにもあるように「協働」をいかに有効に機能させるかという実証体験にもなったと感じた。	単に行政とボランティア団体という関係ではなく、共通の目的意識をもった協働の相手という意識で臨めたと思います。
相互理解	相手の立場や組織の特性の違いなどを理解し、互いに補える関係が築けましたか。	
	築けた部分もあるが、決定的に受け入れられない課題もある。「公休日」の出勤の扱いと勤務拠点と勤務先との間の「交通費」の扱いについては疑問を感じ得ない、また、避難所開設担当者の訓練に「宿泊業務指示」が出せないという状況など付与した任務とその責務の遂行のための訓練との関連が繋がっていないように感じた。今後は、市当局は労働組合との調整を進めて訓練がスムーズに行える環境の構築に取り組んで欲しいと思う。基本は「市民のために」であることを忘れないということに尽きる。	築けたと思うが、職員研修に係る部分については、担当部署として人事課との調整も含め、整理が必要と考えています。

3 協働事業における役割分担

役割分担は適正であったか、役割を果たすことができたか、相乗効果を発揮することができたかなどについて評価します。

役割分担の内容	役割分担の内容を具体的に記入してください。	
	<p>(団体の役割)</p> <p>座間市安全防災課と打ち合わせた内容に基づき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座のカリキュラムの編成、資料の収集、 ・レクシンプランの作成、 ・各種資料の作成、講座用パワーポイントの作成、 ・募集用のピラの作成、 ・体験型講座の資機材の準備、 ・講座用マニュアルの作成、 ・訓練物資の購入、 ・体験型講座当日の安全管理、 ・講座の進行管理、 ・インストラクターの手配など。 	<p>(市の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場の確保と借用手続きの実施。 ・講座並びに体験講座の開催についての「広報ざま」「座間市HP」の事業広告の掲載、「市内公共施設」等への資料の配布、ポスターの掲示。回覧の配布手続、 ・広報用印刷物の印刷、製本、配布準備作業。 ・市職員研修にかかわる庁内関係部署への参加指示の発令手続きと予算措置。

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
適正さ	役割分担は適正なものでしたか。	
	おおむね適正だったと考える。	概ね適正であったと思います。
実施結果	設定した役割分担を果たすことができましたか。	
	<p>担当団体として役割分担は果たせたと思う。これも窓口となった担当職員との個人的信頼関係がベースにあったと思う。どんな仕事にでもいえるか基本は「人間関係」がいかにかうまく構築できるかにかかっていると感じた。</p>	役割分担は概ね果たせたと思います。
協働による効果	それぞれが単独で実施する以上の成果を上げることができましたか。	
	<p>協働事業を通して ZSVN の知名度は高くなったと感じている。市の施設の会場の確保をはじめとして講座の運営はスムーズに行ったと考え、この面では単独事業にないメリットを感じることが出来た。</p> <p>しかし、自治会との調整はある意味「行政」が介在することによってさまざまな「課題」が浮かび上がってきたと感じる。この点は、行政が自治会に対して「協働事業」の狙いを理解しやすく説明をして理解をしてもらう行動力を示して欲しいと感じた。</p>	<p>市民への啓発については、過去においても実施はしていたが、対職員については具体的な研修はおこなわれていませんでした。しかし、24年度において課題等もありますが協働提案事業の中で職員を対象とした座学・体験研修が実施できたことは大きな成果と思います。</p>

4 今後の具体的な展開

事業の波及効果	今後、実施事業をどの様な形で展開していくことが望ましいと思いますか。	
	<p>(団体の考え)</p> <p>今年度の事業は2年目の協働事業であった。引き続き25年度の事業も当団体が担当することに決まり調整が始まる。</p> <p>しかし、規則によって協働事業は3年間との定めがある。一方、24年度にほぼ策定され25年度初頭に明示される「座間市地域防災計画修正版」の中に、市民への防災啓発活動、新たに、「地域防災推進員」、「避難所運営委員会」、「災害ボランティア養成」等さまざまな減災活動、災害対応活動への取り組み課題が示されている。</p> <p>一方では、24年度からZSVNが受託させていた「避難所防災資機材庫点検業務」などの課題もあるのでより密接な連携を保ちながら今後、これらの推進課題に当団体がどのようにかかわってゆけるのかを座間市当局と真剣に考えてゆきたいと考える。</p> <p>ShakeOut 訓練は、座間市の防災訓練の「形」の一つとして入った。これを、より効果あるものにするために市と連携して取り組んでゆきたいと考える。</p>	<p>(市の考え)</p> <p>本事業は平成25年度で終了となりますが、市民への防災・減災の啓発という点で一定の成果を得たものと考えます。したがって、今後もこの研修講座は運営の仕方なども含め、継続の方向で検討していきたい。</p>